

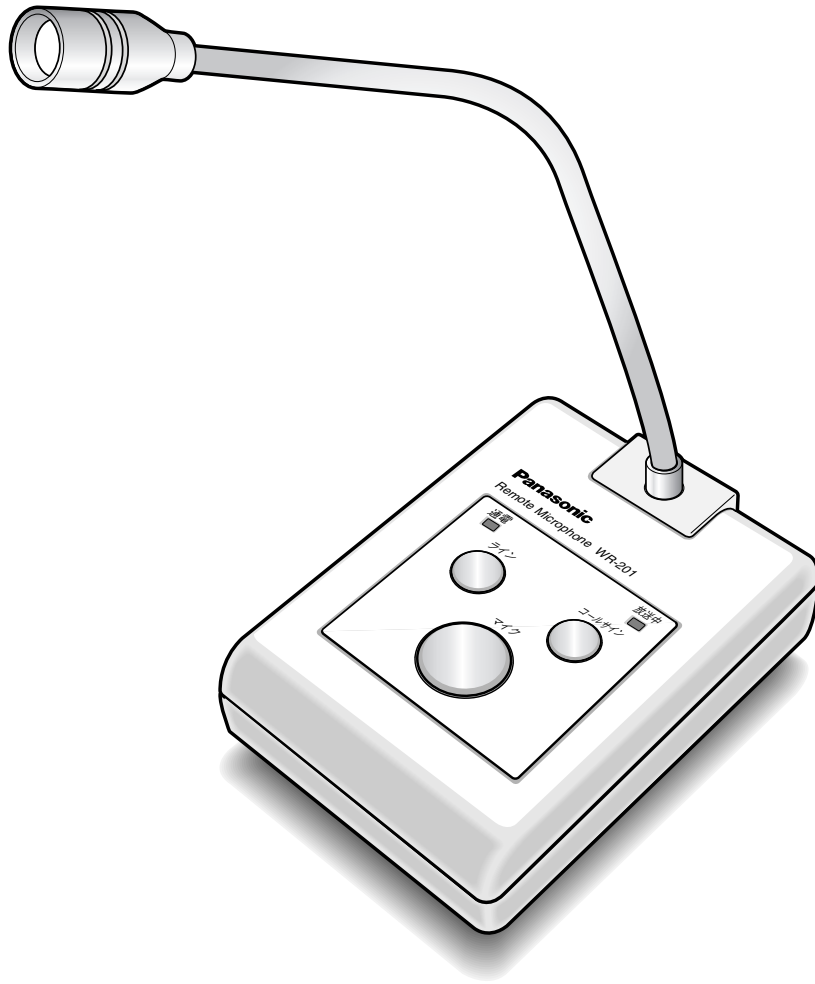
Panasonic®

取扱説明書

工事説明付き

リモコンマイク

品番 **WR-201**



上手に使って上手に節電

保証書別添付

このたびは、リモコンマイクをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(4ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

商品概要

本機は、業務用途を目的とした各種音響装置（以下主装置）用の単局リモコンマイクです。

- ライン入力端子にBGM機器などを接続して本機から放送することができます。
- コールサインを内蔵しています。また、本機を接続する主装置側に内蔵されたコールサインを、本機のコールサインボタンにより放送することもできます。

付属品をご確認ください

取扱説明書（工事説明付）本書…………… 1冊	以下の付属品は取付工事に使用します。
保証書…………… 1式	束線バンド
風防（本体に取付済）…………… 1個	（幅2.5 mm×厚さ1.1 mm×長さ150 mm） ……1本
	音量調整用小型ドライバー…………… 1本

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して、一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の故意や誤使用、不注意による損害または本商品の破損など
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、拡声ができないことなどで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

記号のみかた



：該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

もくじ

ご使用前に

商品概要	2
付属品をご確認ください	2
免責について	2
記号のみかた	2
安全上のご注意	4
使用上のお願い	5
各部のなまえと働き（前面）	6

ご使用前に

操作

放送のしかた	7
フレキシブルマイクから放送するとき	7
ライン入力端子に接続した機器の音源を放送するとき	8
ライン入力で放送中にフレキシブルマイクから放送するとき	8

操作

設置・工事

設置上のご注意	9
各部のなまえと働き（後面・底面）	10
接続のしかた	11
接続できる主装置	11
線材の線径	11
ハイパワーアンプ（WA-H30/H60/H120）との接続	12
音声調整卓（WL-SA111/112/113/122/133）との接続	14
インテリジェントAVステーション（WL-AV190A）との接続	16
壁掛形非常用放送設備（WK-EK110/EK115/EK120）との接続	18
ラック形非常用放送設備（WL-8000/WL-8500）／業務放送システム（WL-K600）との接続	20
ラック形音響装置（WL-7100/7600）との接続	23
線材の束線のしかた	26
音量の調整のしかた	26
ライン入力端子への接続のしかた	27

設置・工事

必要なとき

故障かな!?	28
仕様	29
保証とアフターサービス	30

必要なとき

安全上のご注意

必ずお守りください

ご使用前に

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です。)



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

工事は販売店に依頼する



工事は技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店に依頼してください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、においがするなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

- 直ちに販売店に連絡ください。

分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因となります。

不安定な場所に置かない



禁止

落下や転倒によるけがや事故の原因となります。

機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない



水ぬれ禁止

水などが中に入った場合、火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源を切り、販売店に連絡ください。

雷のときは工事、配線をしない



禁止

火災や感電の原因となります。

使用上のお願い

⚠ 警告 に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

● **使用温度範囲は、0℃～+45℃です。**

この温度範囲以外で使用すると、内部の部品に悪影響を与え、故障または誤動作の原因になります。

● **携帯電話のご使用について**

本機の近くでは、携帯電話等の無線機器のご使用は避けてください。放送にノイズが入る恐れがあります。

● **本機を移動する場合は、筐体部を持ってください。**

フレキシブルマイク部を持って移動すると、故障の原因になります。

● **マイク部を口元に近づけるときは、マイク部に近い側を持って曲げてください。**

絶対に根元側から曲げることはしないでください。

● **使用場所について**

- ・本機を水滴のかかる場所には置かないでください。
- ・本機の上や周囲に水などが入った容器を置かないでください。
- ・窓際など直射日光の当たる場所での使用は避けてください。

● **表示について**

本機の識別および電源その他の表示は、本機底面に表示しています。

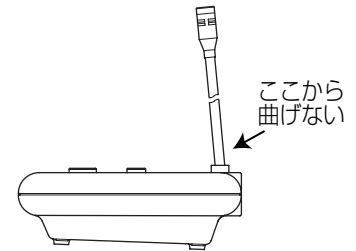
● **お手入れについて**

ケースが汚れたときは、水で薄めた台所用洗剤（中性）を柔らかい布にしみ込ませ、固く絞ってから軽くふいてください。そのあと、乾いた柔らかい布で洗剤成分を完全にふき取ってください。

ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。

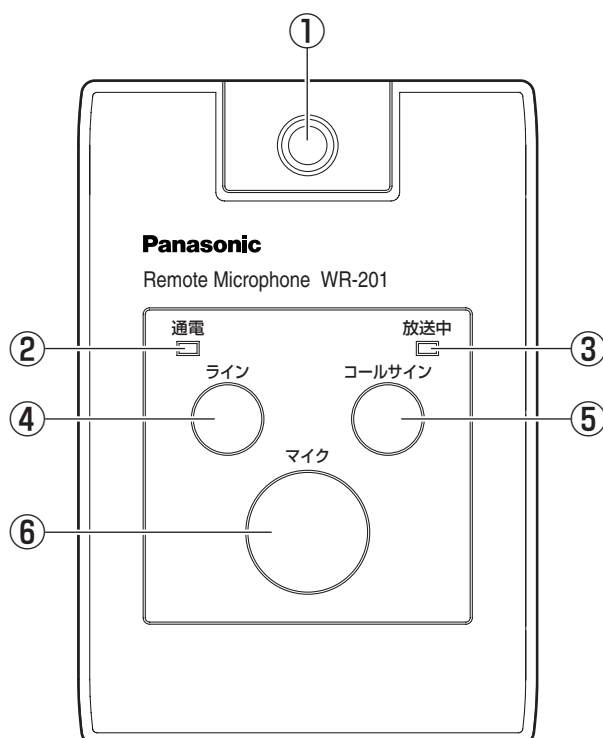
化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

● **壁に取り付けることはできません。**



各部のなまえと働き (前面)

■前面



① フレキシブルマイク

マイクの方向を変えることができます。
風防(付属品取付済)をつけてご使用ください。

② 通電表示灯【通電】

本機に電源(DC 24 V)が供給されているときに点灯します。

③ 放送中表示灯【放送中】

マイクボタンまたはラインボタンを押すと点灯します。

④ ラインボタン【ライン】

ライン入力に接続したBGM機器などの音源機器を放送するときに押します。

⑤ コールサインボタン【コールサイン】

ボタンを押すとコールサイン(下り2音)が流れます。

本機内蔵のコールサインを止めて主装置側のコールサインを鳴動させることもできます。(販売店にご相談ください。)

⑥ マイクボタン【マイク】

フレキシブルマイクから放送するときに押します。

放送のしかた

■フレキシブルマイクから放送するとき

1 マイクボタンを押す

放送中表示灯が点灯します。

2 コールサインボタンを押す

コールサインが放送されます。

コールサインボタンは、マイクボタンを押したあと、約1秒以上あけてから押してください。(これは主装置側のアンプによって、動作するまでに時間がかかるためです。)

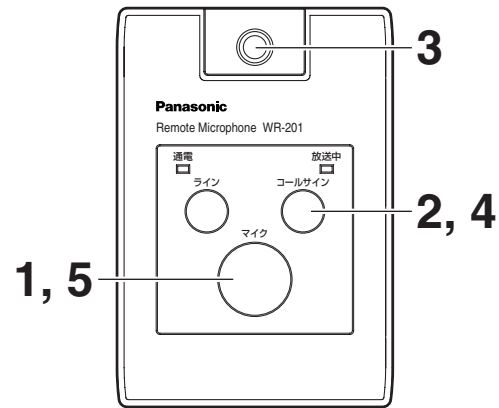
3 フレキシブルマイクから放送する

4 放送終了後、コールサインボタンを押す

コールサインが放送されます。

5 マイクボタンを押す

放送中表示灯が消灯します。



マイク放送、コールサインの音量調整については、販売店にご相談ください。

■ライン入力端子に接続した機器の音源を放送するとき

1 ラインボタンを押す

放送中表示灯が点灯します。

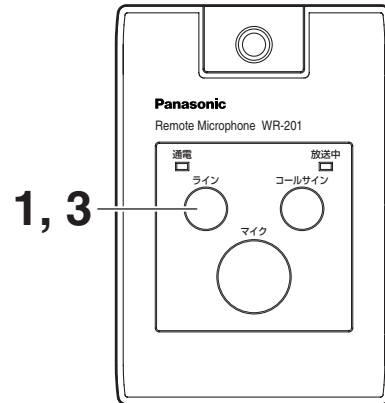
2 音源機器の「再生」ボタンを押して、放送する

音源機器の「再生」ボタンは、ラインボタンを押したあと、約1秒以上あけてから押してください。(これは主装置側のアンプによって、動作するまでに時間がかかるためです。)

3 放送終了後、ラインボタンを押す

放送中表示灯が消灯します。

4 音源機器の「停止」ボタンを押して、放送を止める



ライン放送の音量調整については、販売店にご相談ください。

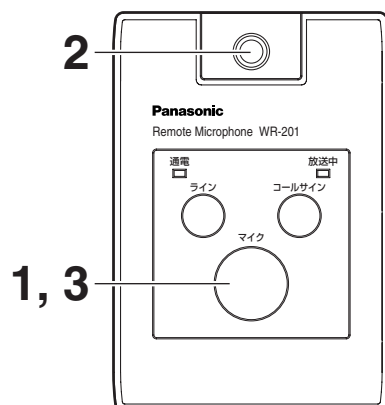
■ライン入力で放送中にフレキシブルマイクから放送するとき

1 マイクボタンを押す

2 フレキシブルマイクから放送する

マイク放送は、ライン放送とミキシングになります。

3 放送終了後、マイクボタンを押す



マイク放送、ライン放送の音量調整については、販売店にご相談ください。

設置上のご注意



警告

工事は必ず販売店に依頼してください。

工事を行う前に、接続する主装置側の電源スイッチを「切」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示に従ってください。接続する機器の取扱説明書もあわせてお読みください。

●設置場所について

- ・直射日光の当たるところや温風吹き出し口の近くの設置は避けてください。
- ・湿気やほこり、振動の多い場所に設置しないでください。
- ・トランス、調光器、映像機器、CRTモニターなどからできるだけ離してください。誘導ノイズを受ける恐れがあります。
- ・電波受信機（ラジオやテレビ、ワイヤレスマイクの受信機など）の近くで使用すると、電波受信機側で雑音や誤動作の原因になることがあります。本機と電波受信機はできるだけ離してご使用ください。

●接続線材について

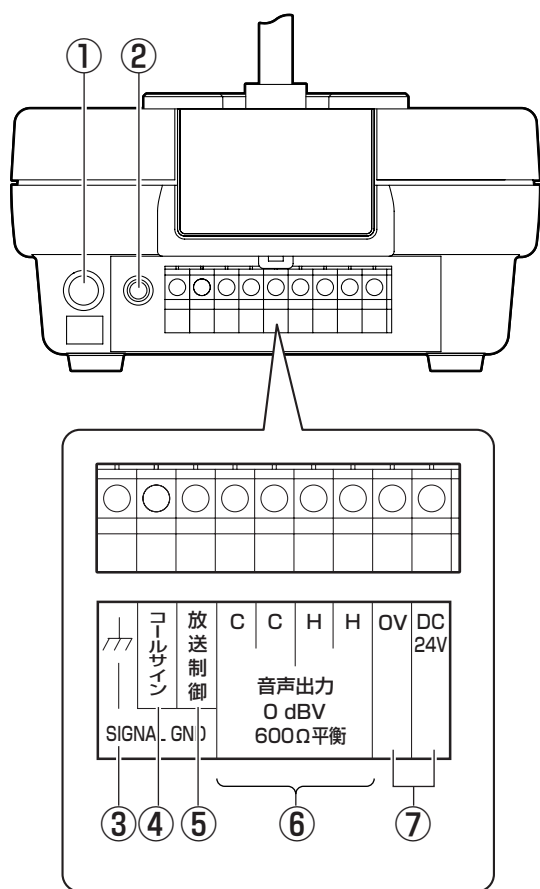
- ・「接続のしかた」に記載されている線材をご使用ください。

●静電気について

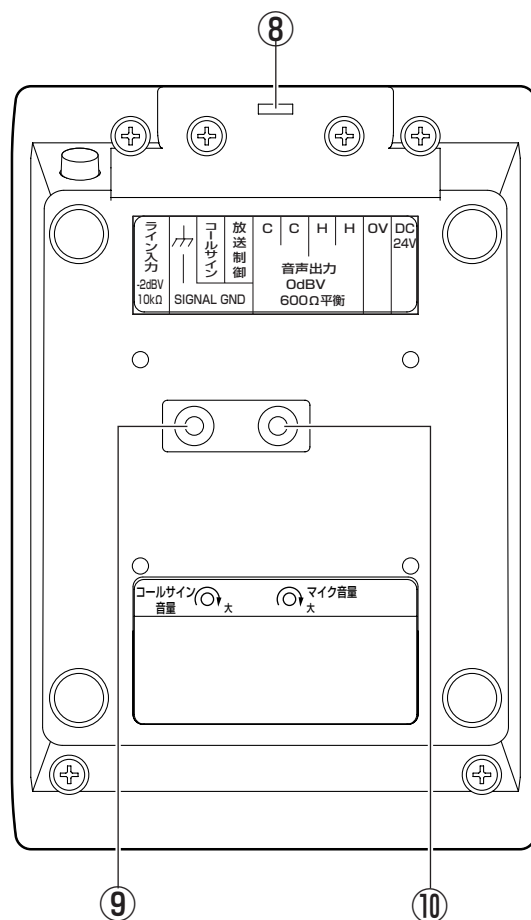
- ・静電気による破損を防止するために、作業を始める前に金属部に手を触れ、人体に帯電している静電気を放電してください。

各部のなまえと働き (後面・底面)

■後面



■底面



① ライン入力音量調節ボリューム [ライン]

ライン入力の音量を調節します。
出荷時：-2 dBVに調整されています。

② ライン入力端子 [-2 dBV 10 kΩ]

BGM機器などの音源機器を接続します。
ステレオで入力されても、本機内部でモノラルにミックスされます。

③ SIGNAL GND端子 [SIGNAL GND]

アースに落としてください。

④ コールサイン端子 [コールサイン]

主装置側のコールサインを鳴動させるときに接続します。

⑤ 放送制御端子 [放送制御]

放送起動をかけるために、主装置側の放送制御端子などと接続します。

⑥ 音声出力端子 [H, C, 0 dBV, 600 Ω 平衡]

主装置側の音声入力端子と接続し、本機の音声を主装置側に出力します。

⑦ 電源接続端子 [DC 24 V, 0 V]

主装置側の電源端子と接続し、電源の供給を受けます。

⑧ ケーブルクランプ

端子台に接続した線材を束線バンドで束線します。

⑨ コールサイン音量調整ボリューム [コールサイン音量]

本機内蔵のコールサインの音量を調整します。

⑩ マイク音量調整ボリューム [マイク音量]

フレキシブルマイクの音量を調整します。



・主装置側のコールサインを鳴動させるときは、コールサイン音量を最小に絞り切ってください。

接続のしかた

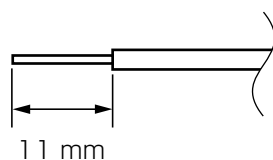
■接続できる主装置

品名	品番	
ハイパワーアンプ	WA-H30/H60/H120	
音声調整卓	一系統	WL-SA111/SA112/SA113
	二系統	WL-SA122
	三系統	WL-SA133
インテリジェントAVステーション	WL-AV190A	
ラック形音響装置	WL-7100/7600	
業務放送システム	WL-K600	
ラック形非常用放送設備	WL-8000/8500	
壁掛形非常用放送設備	WK-EK110/EK115/EK120	

■線材の線径

配線距離	200 m以下	500 m以下
シールド線	0.5 mm ² (AWG20)~1.25 mm ² (AWG16)	
制御線	φ0.8 mm (AWG20) ~ φ1.2 mm (AWG16)	φ1.2 mm (AWG16)

- ・ 上表以外の線材を使用する場合は、1線の線路抵抗が7 Ω以下のものを使用してください。
- ・ リモコンマイクを移動して使用する場合は、より線を使用して中継してください。
- ・ 接続する線材の先端は、11 mm（標準剥き線長）に剥きます。



- ・ 接続する主装置により、音声出力端子に接続するシールド線は、単芯シールド線または2芯シールド線になります。
- ・ プラグで主装置に接続する場合、プラグの種類とシールド線の接続のしかたが主装置により異なります。

主装置名	線種	プラグの種類	シールド線の接続のしかた
ハイパワーアンプ	2芯シールド線	複式プラグ	
音声調整卓			
ラック形音響装置			
業務放送システム		端子台に接続	
ラック形非常用放送設備			
壁掛形非常用放送設備			
インテリジェントAVステーション	単芯シールド線	単頭プラグ	

■ハイパワーアンプ (WA-H30/H60/H120) との接続

- ・本機からマイク、ライン、内蔵コールサインの一斉放送ができます。
- ・ハイパワーアンプ側の電源が「スタンバイ」のときに、本機から電源を「入」にして放送することができます。
- ・ハイパワーアンプ側の電源が「スタンバイ」のときでも、本機の通電表示灯は点灯しています。

●接続および調整のしかた

本機とハイパワーアンプ間を、接続図に示すように接続します。

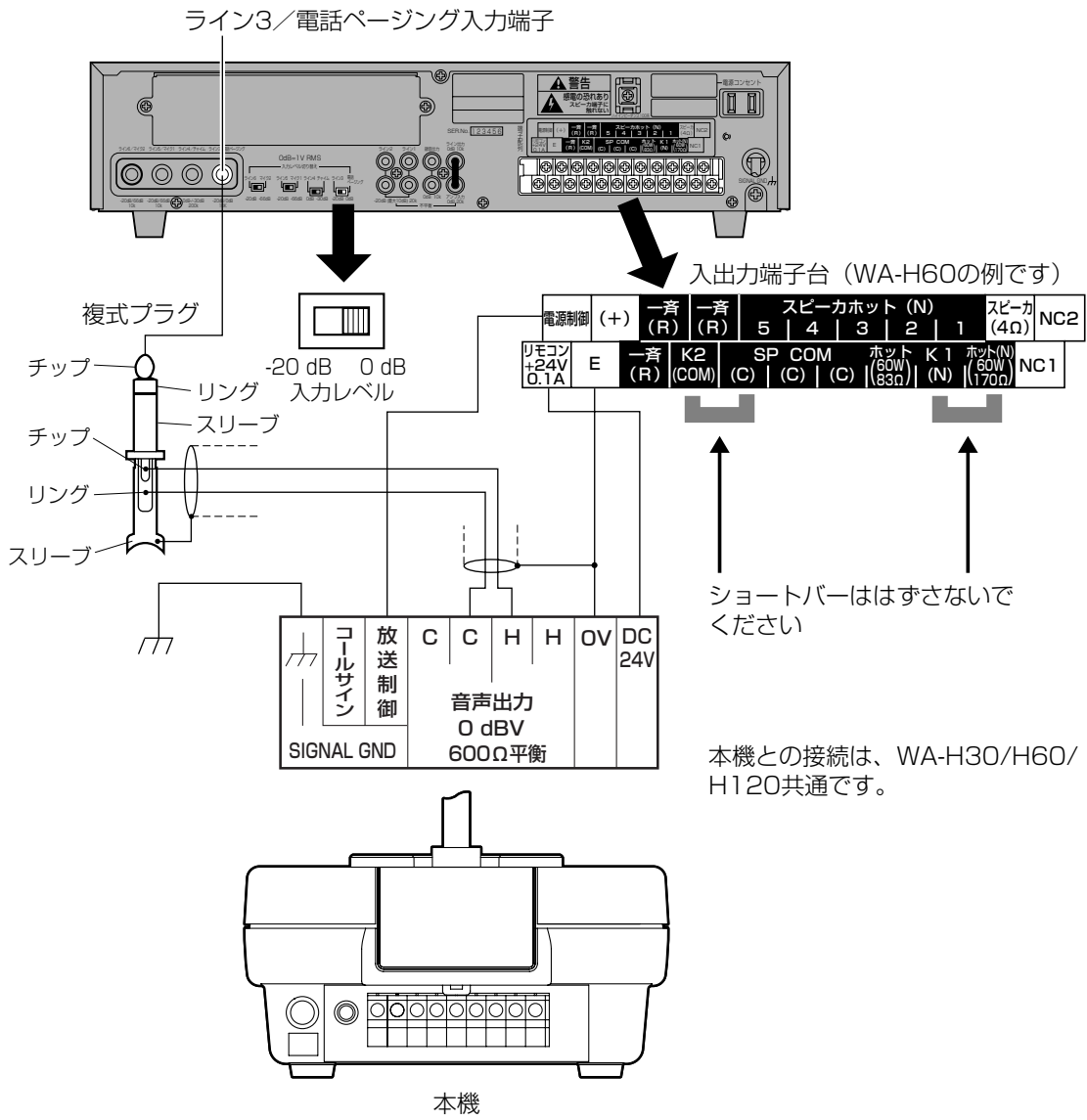
ハイパワーアンプ側の接続および調整のしかたの詳細は、ハイパワーアンプの取扱説明書をお読みください。

- ・本機の音声出力端子は、ハイパワーアンプ側のライン3／電話ページング入力端子またはライン4／チャイム入力端子に接続します。(接続した入力端子の入力レベル切換スイッチは、「0 dB」側にします。)
- ・ハイパワーアンプ側での本機の音量調整は、接続した入力端子に対応する音量つまみで行います。(本機からの放送ができなくなる場合がありますので、調整後は音量つまみに触れないようにしてください。)
本機の放送を優先放送にするときは、ハイパワーアンプ側で内部スイッチの切り替えと、ミュートレベルの調整が必要です。
- ・本機の放送制御端子は、ハイパワーアンプ側の電源制御端子に接続します。(電源制御端子は、内部で電源制御と放送制御の両方を行っています。)

●コールサインのご使用について

- ・本機からは本機内蔵のコールサインのみ鳴らすことができます。
コールサインの音量調整は、本機底面のコールサイン音量調整ボリュームで行います。(26ページ参照)
- ・本機からハイパワーアンプに組み込まれたコールサインユニット(別売品)を鳴らすことはできません。
ハイパワーアンプに組み込まれたコールサインユニットを鳴らす場合は、ハイパワーアンプ側の操作パネルのコールサインボタンで操作してください。詳細は、ハイパワーアンプの取扱説明書をお読みください。

●接続図



設置・工事

■音声調整卓 (WL-SA111/112/113/122/133) との接続

- ・本機からマイク、ライン、内蔵コールサインの一斉放送ができます。
- ・本機から音声調整卓内蔵のコールサインを鳴らすことができます。
- ・音声調整卓側の電源が「切」のときに、本機から電源を「入」にして放送することができます。
- ・音声調整卓側の電源が「切」のとき、本機の通電表示灯は消灯します。
- ・音声調整卓側の電源が「切」のときでも、本機からの放送操作（マイクボタンまたはラインボタンを押す）によって、音声調整卓側の電源を「入」にして、放送を行うことができます。そのとき本機の通電表示灯は点灯します。

●接続および調整のしかた

本機と音声調整卓間を、接続図に示すように接続します。（音声調整卓のイラストは、WL-SA133です。）

音声調整卓側の接続および調整のしかたの詳細は、音声調整卓の取扱説明書をお読みください。

- ・本機の音声出力端子は、音声調整卓側のリモコン音声入力端子に接続します。
- ・本機のマイク、ライン、内蔵コールサインの音量調整は、本機底面または後面のそれぞれの音量調整ボリュームまたは音量調節ボリュームで行います。（26、27ページ参照）
また本機からの音声出力は、音声調整卓のリモコン入力ボリュームで調整します。
- ・本機の放送制御端子は、音声調整卓側のリモコン制御端子と一斉制御端子の両方に接続します。

●コールサインのご使用について

音声調整卓側の接続および調整のしかたの詳細は、音声調整卓の取扱説明書をお読みください。

(1) 本機から本機内蔵のコールサインのみを鳴らす場合

本機のコールサイン端子と、音声調整卓のコールサイン端子は接続しないでください。

コールサインの音量調整は、本機底面のコールサイン音量調整ボリュームで行います。（26ページ参照）

(2) 本機から音声調整卓内蔵のコールサインのみを鳴らす場合

本機のコールサイン端子と、音声調整卓のコールサイン（はじめ）端子またはコールサイン（おわり）端子を接続します。

本機底面のコールサイン音量調整ボリュームは、最小にします。（26ページ参照）

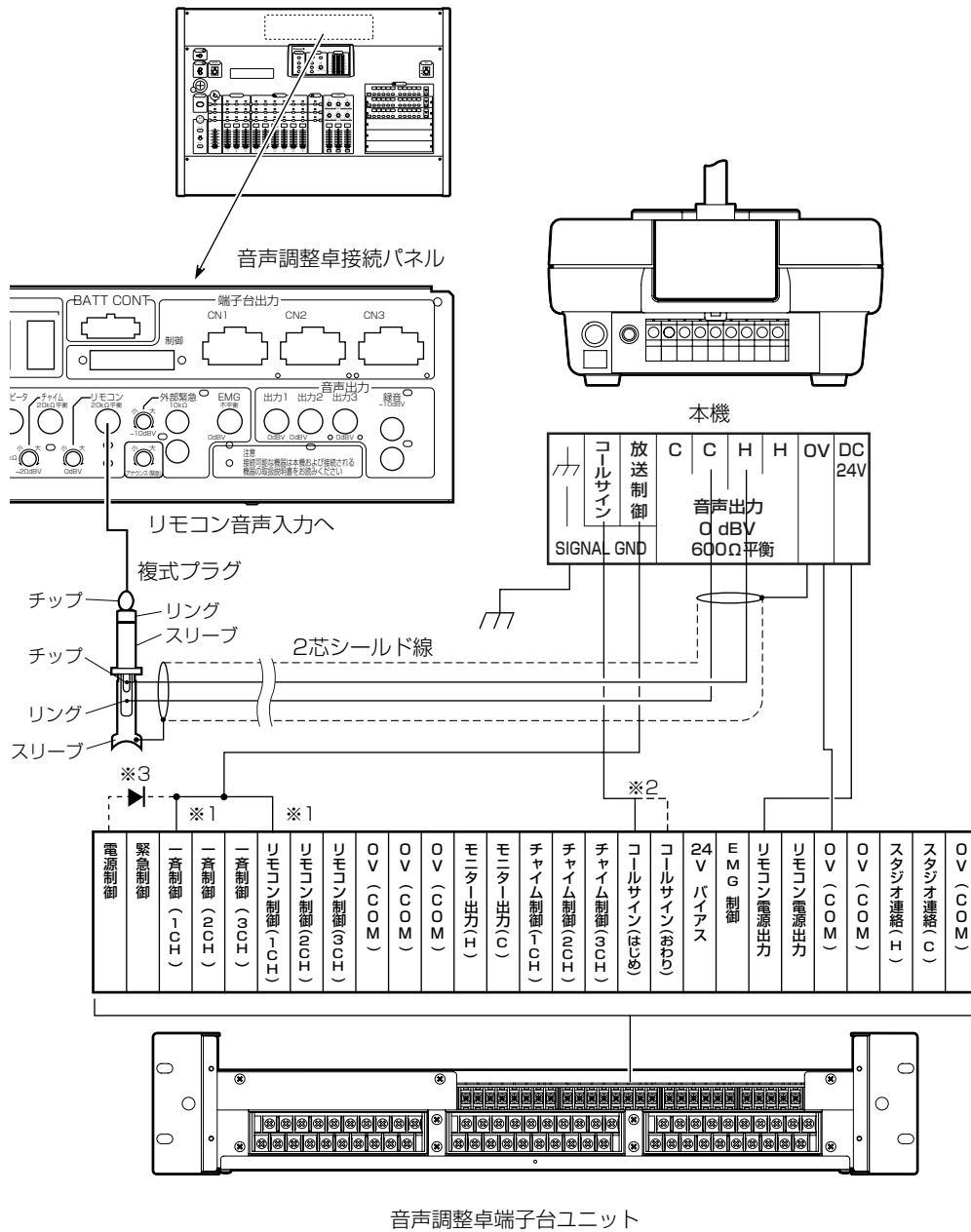
コールサインの音量調整は、音声調整卓内部のコールサイン音量調整ボリュームで行います。

(3) 本機から本機内蔵のコールサインと音声調整卓内蔵のコールサインをどちらも鳴らさない場合

本機のコールサイン端子と、音声調整卓のコールサイン端子は接続しないでください。

本機底面のコールサイン音量調整ボリュームは、最小にします。（26ページ参照）

●接続図



- ※1：図は1CHを一斉放送する場合の接続です。他のチャンネルを一斉放送する場合は、1CHに接続した配線を2CHまたは3CHに変更してください。また、音声調整卓の全チャンネルに一斉放送するときは、1CH、2CH、3CHのすべてに接続してください。
- ※2：本機を使用して、音声調整卓内蔵のコールサインを鳴らす場合に接続してください。本機内蔵のコールサインのみを鳴らす場合や、どちらのコールサインも鳴らさない場合は、接続しないでください。
- ※3：音声調整卓を停電放送に対応させている場合で、停電時に本機から音声調整卓の電源を「入」にして放送する場合は、逆流防止用ダイオードを用いて図のように接続してください。
ダイオード YWAM01Z（サービス部品扱い）または相当品（順電流1 A以上、逆耐電圧200 V以上）

■インテリジェントAVステーション (WL-AV190A) との接続

- ・本機からマイク、ライン、内蔵コールサインの一齐放送ができます。
- ・本機からAVステーション内蔵のコールサインを鳴らすことができます。
- ・AVステーション側の電源が「スタンバイ」のとき、本機の通電表示灯は消灯します。
- ・本機を接続するときは、AVステーション端子部制御パネル右のディップスイッチ1 (DIPSW1) の「2」を「0 (OFF)」にします。詳細は、AVステーションの工事説明書をお読みください。

●接続および調整のしかた

本機とAVステーション間を、接続図に示すように接続します。

AVステーション側の接続および調整のしかたの詳細は、AVステーションの工事説明書およびテクニカルガイドをお読みください。

- ・本機の音声出力端子は、AVステーション側のリモコン入力端子に接続します。
- ・本機のマイク、ライン、内蔵コールサインの音量調整は、本機底面または後面のそれぞれの音量調整ボリュームまたは音量調節ボリュームで行います。(26、27ページ参照) AVステーション側では、本機の音量調整はできません。
- ・本機の放送制御端子は、AVステーション側の放送制御端子と一齐端子の両方に接続します。

●コールサインのご使用について

AVステーション側の接続および調整のしかたの詳細は、AVステーションの工事説明書およびテクニカルガイドをお読みください。

(1) 本機から本機内蔵のコールサインのみを鳴らす場合

本機のコールサイン端子と、AVステーションのコールサイン端子は接続しないでください。

コールサインの音量調整は、本機底面のコールサイン音量調整ボリュームで行います。(26ページ参照)

(2) 本機からAVステーション内蔵のコールサインのみを鳴らす場合

本機のコールサイン端子と、AVステーションのコールサイン端子を接続します。

本機底面のコールサイン音量調整ボリュームは、最小にします。(26ページ参照)

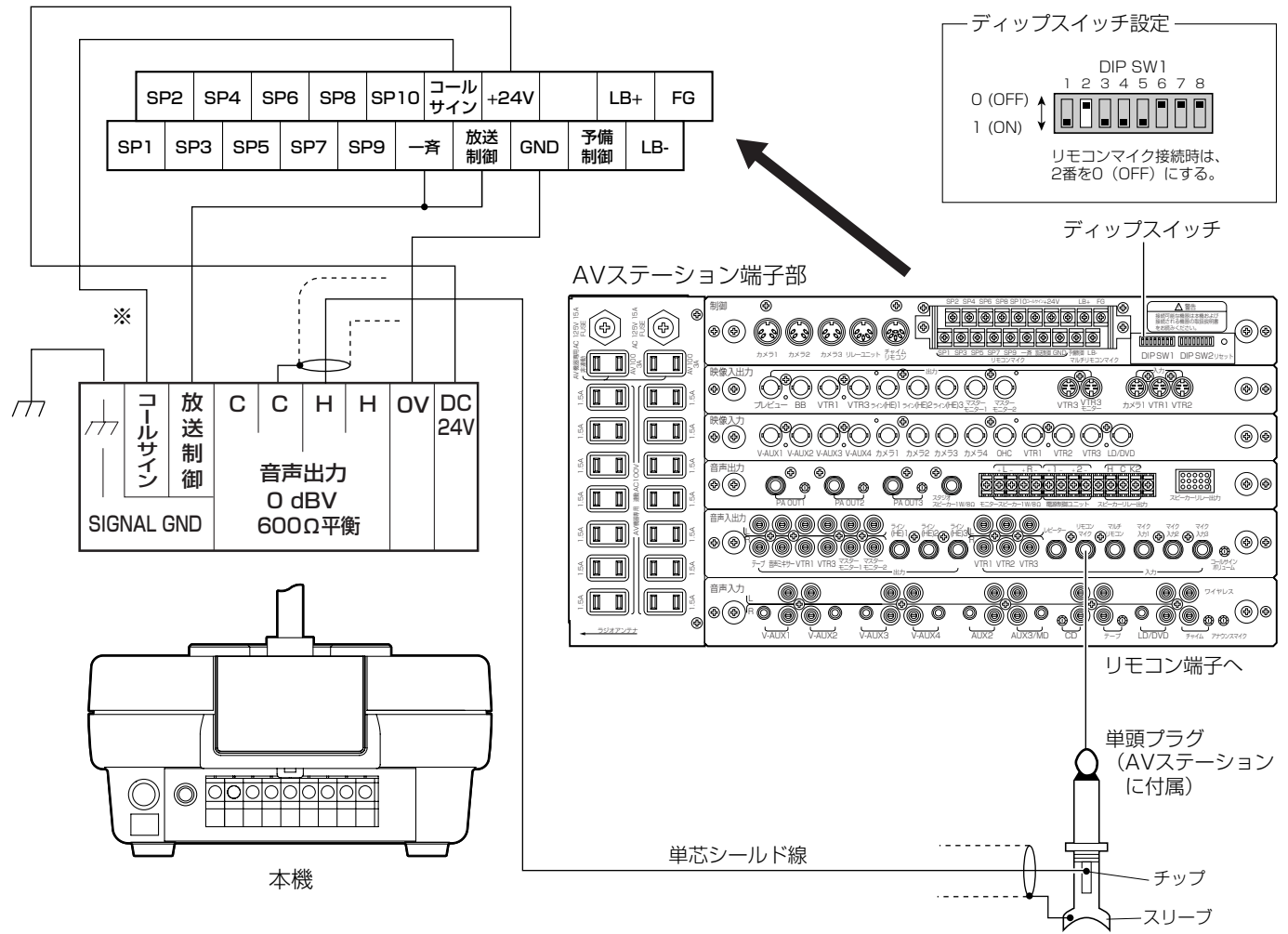
コールサインの音量調整は、AVステーション側のコールサイン音量調整ボリュームで行います。

(3) 本機から本機内蔵のコールサインとAVステーション内蔵のコールサインをどちらも鳴らさない場合

本機のコールサイン端子と、AVステーションのコールサイン端子は接続しないでください。

本機底面のコールサイン音量調整ボリュームは、最小にします。(26ページ参照)

●接続図



※：本機を使用してAVステーション内蔵のコールサインを鳴らす場合に接続してください。

■壁掛形非常用放送設備（WK-EK110/EK115/EK120）との接続

- ・本機からマイク、ライン、内蔵コールサインの一齐放送およびブロック放送ができます。
- ・本機から壁掛形非常用放送設備内蔵のコールサインを鳴らすことができます。
- ・壁掛形非常用放送設備側の電源が「入」のときでも、本機の通電表示灯は消灯しています。
- ・本機からの放送操作（マイクボタンまたはラインボタンを押す）によって、壁掛形非常用放送設備側から本機へ電源が供給され、放送を行うことができます。そのとき本機の通電表示灯は点灯します。

●接続および調整のしかた

本機と壁掛形非常用放送設備間を、接続図に示すように接続します。

壁掛形非常用放送設備側の接続および調整のしかたの詳細は、壁掛形非常用放送設備の工事説明書をお読みください。

- ・本機の音声出力端子は、壁掛形非常用放送設備側の一般リモコン音声入力端子に接続します。
- ・本機のマイク、ライン、内蔵コールサインの音量調整は、本機底面または後面のそれぞれの音量調整ボリュームまたは音量調節ボリュームで行います。（26、27ページ参照）
また本機からの音声出力は、壁掛形非常用放送設備内部の一般リモコンマイク入力音声調整（VR104）で行います。
- ・一齐放送の場合、本機の放送制御端子は、壁掛形非常用放送設備側の放送制御端子と一齐端子の両方に接続します。
- ・本機2台を使用してのブロック放送の場合、本機1台目の放送制御端子は、本機1台目で放送を行うスピーカー出力に対応した壁掛形非常用放送設備の制御入力端子（接続図では制御入力1端子）に接続します。本機2台目の放送制御端子も同様に制御入力端子（接続図では制御入力2端子）に接続します。壁掛形非常用放送設備側の放送制御端子とは、2台をダイオードで接続します。

●コールサインのご使用について

壁掛形非常用放送設備側の接続および調整のしかたの詳細は、壁掛形非常用放送設備の工事説明書をお読みください。

(1) 本機から本機内蔵のコールサインのみを鳴らす場合

本機のコールサイン端子と、壁掛形非常用放送設備のコールサイン端子は接続しないでください。

コールサインの音量調整は、本機底面のコールサイン音量調整ボリュームで行います。（26ページ参照）

(2) 本機から壁掛形非常用放送設備内蔵のコールサインのみを鳴らす場合

本機のコールサイン端子と、壁掛形非常用放送設備のコールサイン上り端子またはコールサイン下り端子を接続します。

本機底面のコールサイン音量調整ボリュームは、最小にします。（26ページ参照）

コールサインの音量調整は、壁掛形非常用放送設備側の操作（液晶画面とマイクドア内のスイッチ操作）で行います。

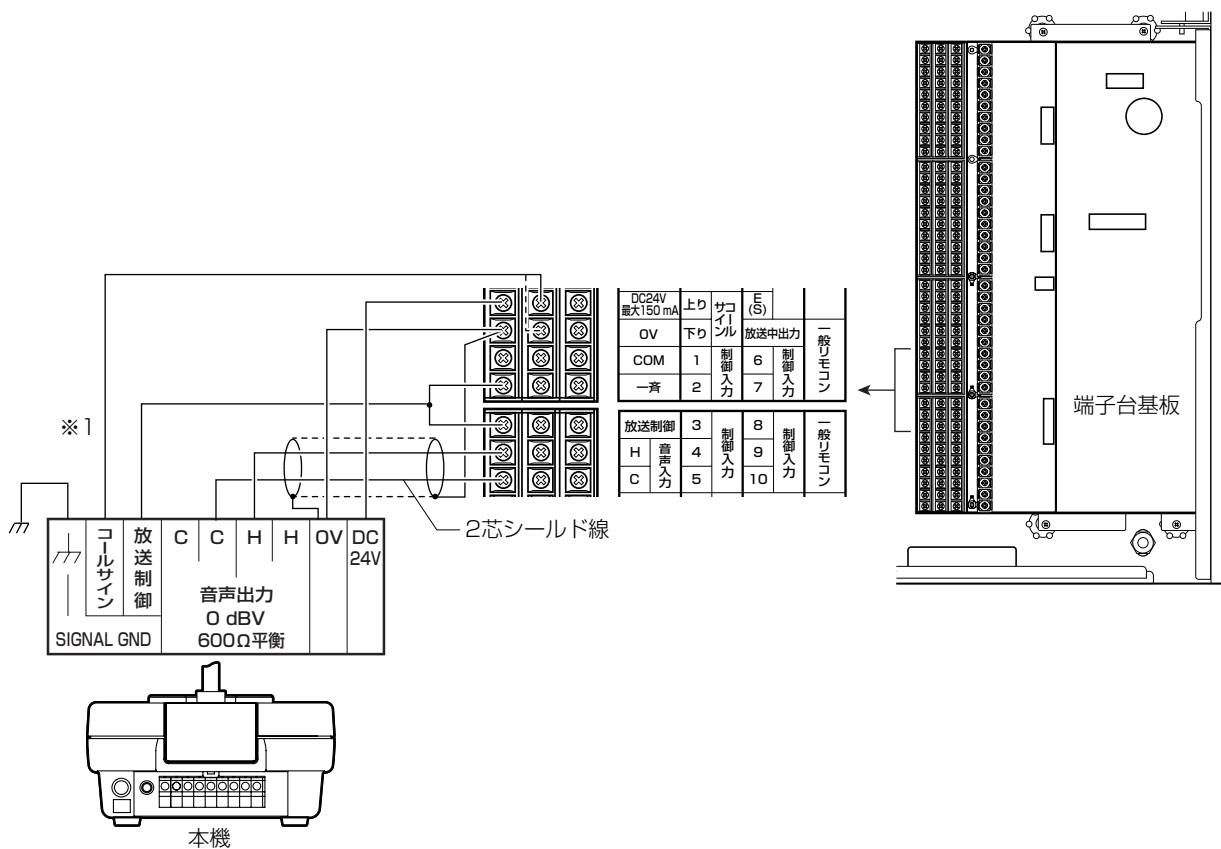
(3) 本機から本機内蔵のコールサインと壁掛形非常用放送設備内蔵のコールサインをどちらも鳴らさない場合

本機のコールサイン端子と、壁掛形非常用放送設備のコールサイン端子は接続しないでください。

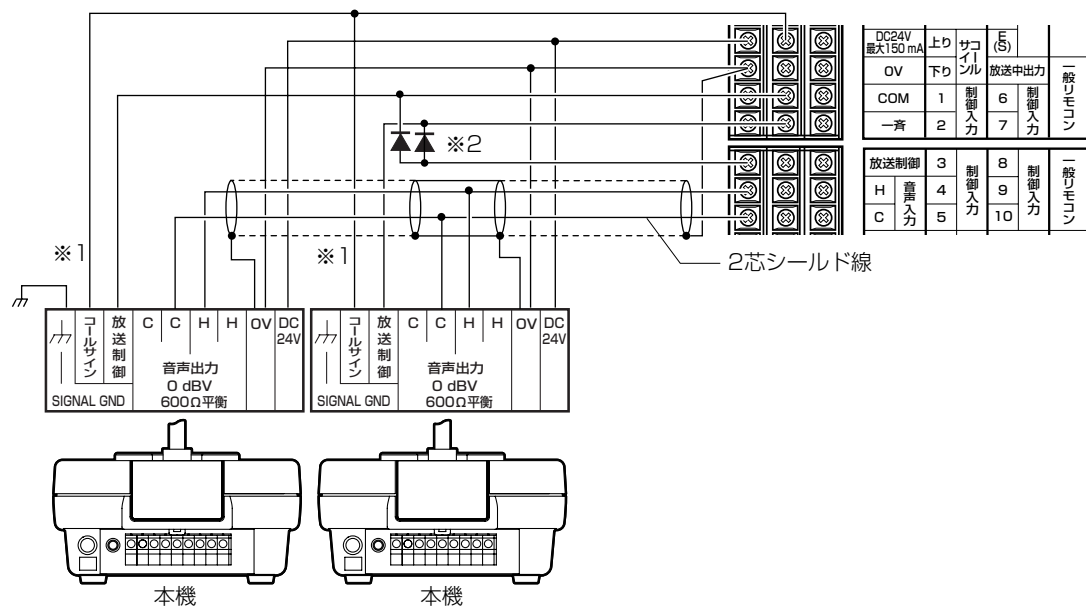
本機底面のコールサイン音量調整ボリュームは、最小にします。（26ページ参照）

●一斉放送するときの接続のしかた

WK-EK110/EK115/EK120端子台



●ブロック放送するときの接続のしかた



※1：本機を使用して壁掛形非常用放送設備内蔵のコールサインを鳴らす場合に接続してください。

※2：本機を複数台使用して各ブロック放送する場合は、逆流防止用ダイオードが必要です。

ダイオード YWAM01Z（サービス部品扱い）または相当品（順電流1 A以上、逆耐電圧200 V以上）

■ラック形非常用放送設備（WL-8000/WL-8500）／業務放送システム（WL-K600）との接続

- ・本機からマイク、ライン、内蔵コールサインの一斉放送およびブロック放送ができます。
- ・本機からラック形非常用放送設備／業務放送システム内蔵のコールサインを鳴らすことができます。
- ・ラック形非常用放送設備／業務放送システムの電源が「入」のときでも、本機の通電表示灯は消灯しています。
- ・本機からの放送操作（マイクボタンまたはラインボタンを押す）によって、ラック形非常用放送設備／業務放送システムから本機へ電源が供給され、放送を行うことができます。そのとき本機の通電表示灯は点灯します。

●接続および調整のしかた

本機とラック形非常用放送設備／業務放送システムを、接続図に示すように接続します。

ラック形非常用放送設備／業務放送システム側の接続および調整のしかたの詳細は、ラック形非常用放送設備／業務放送システムの工事説明書をお読みください。

- ・ラック形非常用放送設備／業務放送システムに接続できる本機の台数は、5局リモコンマイク（WR-205A）、10局リモコンマイク（WR-210A）と合計で6台までです。
- ・本機のマイク、ライン、内蔵コールサインの音量調整は、本機底面または後面のそれぞれの音量調整ボリュームまたは音量調節ボリュームで行います。（26、27ページ参照）
また本機からの音声出力は、ラック形非常用放送設備の入出力制御ユニット（WU-ER550）の一般リモコンマイク音量調整またはシステムコントローラー（WK-KR600）の音声設定で調整します。
- ・一斉放送の場合、本機の放送制御端子は、入出力制御ユニット（WU-ER550または、WU-KR600）の一斉端子と放送制御端子に接続します。
- ・本機2台を使用してのブロック放送の場合、本機1台目の放送制御端子は、本機1台目で放送を行うスピーカー出力に対応した入出力制御ユニット（WU-ER550または、WU-KR600）の制御入力端子（接続図では制御入力1端子）に接続します。本機2台目の放送制御端子も同様に制御入力端子（接続図では制御入力2端子）へ接続します。入出力制御ユニット側の放送制御端子とは、2台をダイオードで接続します。

●コールサインのご使用について

ラック形非常用放送設備／業務放送システム側の接続および調整のしかたの詳細は、ラック形非常用放送設備／業務放送システムの工事説明書をお読みください。

(1) 本機から本機内蔵のコールサインのみを鳴らす場合

本機のコールサイン端子と、入出力制御ユニット（WU-ER550または、WU-KR600）のコールサイン端子は接続しないでください。

コールサインの音量調整は、本機底面のコールサイン音量調整ボリュームで行います。（26ページ参照）

(2) 本機からラック形非常用放送設備／業務放送システム内蔵のコールサインのみを鳴らす場合

本機のコールサイン端子と、入出力制御ユニット（WU-ER550または、WU-KR600）のコールサイン上り端子またはコールサイン下り端子を接続します。

本機底面のコールサイン音量調整ボリュームは、最小にします。（26ページ参照）

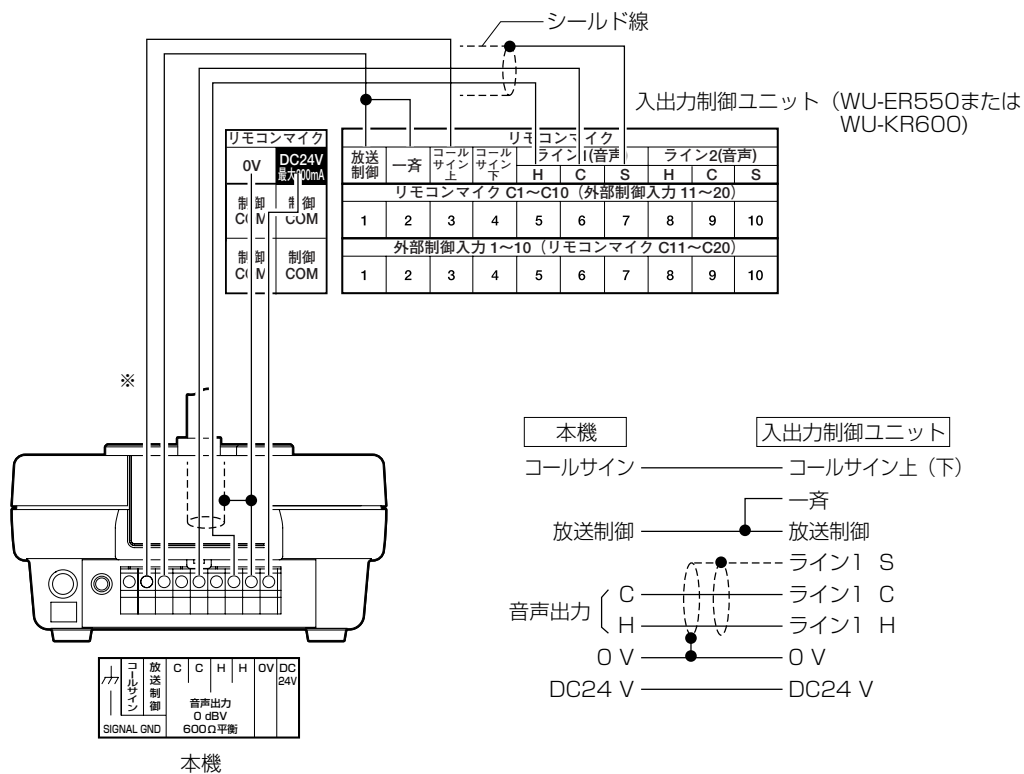
コールサインの音量調整は、非常操作ユニット（WK-ER500）およびシステムコントローラー（WL-KR600）内部のコールサイン音量調整で行います。

(3) 本機から本機内蔵のコールサインとラック形非常用放送設備／業務放送システム内蔵のコールサインをどちらも鳴らさない場合

本機のコールサイン端子と、入出力制御ユニット（WU-ER550または、WU-KR600）のコールサイン端子は接続しないでください。

本機底面のコールサイン音量調整ボリュームは、最小にします。（26ページ参照）

●一斉放送するときの接続のしかた



※：本機を使用してラック形非常用放送設備／業務放送システム内蔵のコールサインを鳴らす場合に接続してください。

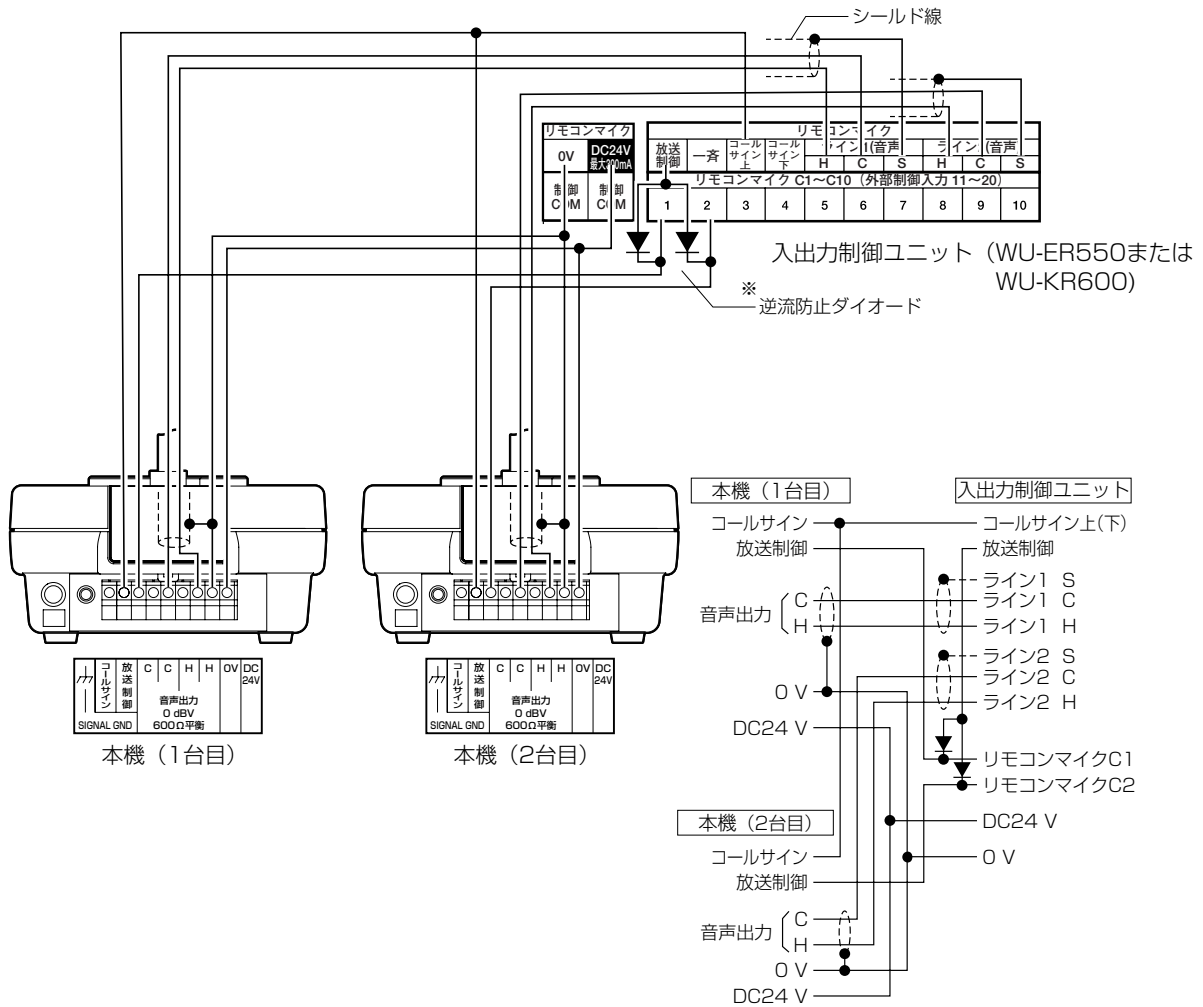
接続のしかた

●ブロック放送するときの接続のしかた

ブロックごとに本機を用意し、本機からの放送制御信号以外を並列に接続します。

各リモコンマイクからの放送制御信号は、入出力制御ユニットのリモコンマイクC1～C10端子にそれぞれ接続します。

この例では、1台目をC1に、2台目をC2に割り当ててブロック放送を行っています。



※：本機を複数台接続して各々ブロック放送を行う場合は、本機の放送制御と入出力制御ユニットの放送制御との間にダイオードを接続してください。

ダイオードは、YWAM01Z（サービス部品扱い）または、相当品（順電流1 A以上、逆耐電圧200 V以上）

■ラック形音響装置（WL-7100/7600）との接続

- ・本機からマイク、ライン、内蔵コールサインの一齐放送および複数のスピーカー回線をまとめた放送ができます。
- ・本機からラック形音響装置内蔵のコールサインを鳴らすことができます。（ラック形音響装置に別売のコールサインユニット（WU-Z05/Z05A）を組み込む必要があります。）
- ・ラック形音響装置の電源が「入」のとき、本機の通電表示灯は点灯します。
- ・本機で制御可能な回線数の制約については、以下の通りです。

回線増設の有無	一齐放送用として使う場合	複数のスピーカー回線をまとめて使う場合			
なし	最大10回線	最大8回線			
あり	・WU-R31を使わない場合 最大40回線 （WK-430 3台使用） ・WU-R31を使う場合 最大30回線 （WK-430 2台使用 WU-R31 3台使用）			必要なユニット	
		まとめられるスピーカー回線数	主装置の増設回線数	WK-430	WU-R31
		7	10	1	2
		6	20	2	3
		5	30	3	4
4	40	4	5		
3	50	5	6		

●接続および調整のしかた

本機とラック形音響装置間を、接続図に示すように接続します。

ラック形音響装置側の接続および調整のしかたの詳細は、ラック形音響装置の工事説明書をお読みください。

- ・本機の音声出力端子は、ラック形音響装置のミキサーユニット（WU-M60A）のIN A端子またはIN B端子に接続します。（接続した入力端子の入力レベル切換スイッチは、「0 dB」側にします。）
- ・本機のマイク、ライン、内蔵コールサインの音量調整は、本機底面または後面のそれぞれの音量調整ボリュームまたは音量調節ボリュームで行います。（26、27ページ参照）
また本機からの音声出力は、ミキサーユニット側の接続した入力端子に対応する音量つまみで調整します。（本機からの放送ができなくなる場合がありますので、調整後は音量つまみに触れないようにしてください。）
- ・一齐放送の場合、本機の放送制御端子は、ラック形音響装置の端子盤ユニット（WU-Q55）の端子台T1上にあるP1 CONT端子に接続します。音声出力端子はIN A端子に接続します。（P1 CONT端子は、内部で優先順位1位の制御と放送制御、一齐制御を行っています。）
- ・複数のスピーカー回線をまとめて放送する場合、本機の放送制御端子は、ラック形音響装置のスピーカー選択ユニット（WK-420）または増設用スピーカー選択ユニット（WK-430）を接続した端子盤ユニット（WU-Q55）の対応端子台（接続図では端子台T2上のC1～C10）の端子と、優先順位に対応した端子（接続図では優先順位2位としているので端子台T1上のP2 CONT端子）との両方に接続します。音声出力端子も優先順位に対応した入力端子（接続図では優先順位2位としているのでIN A端子）に接続します。

●コールサインのご使用について

ラック形音響装置側の接続および調整のしかたの詳細は、ラック形音響装置の工事説明書をお読みください。

（1）本機から本機内蔵のコールサインのみを鳴らす場合

本機のコールサイン端子と、端子盤ユニット（WU-Q55）の端子台T1上にあるコールサイン端子は接続しないでください。

コールサインの音量調整は、本機底面のコールサイン音量調整ボリュームで行います。（26ページ参照）

（→次ページに続く）

接続のしかた

(2) 本機からラック形音響装置のコールサインのみを鳴らす場合

ラック形音響装置に別売のコールサインユニット (WU-Z05/Z05A) を組み込む必要があります。本機のコールサイン端子と、端子盤ユニット (WU-Q55) の端子台T1上にあるコールサイン端子を接続します。

本機底面のコールサイン音量調整ボリュームは、最小にします。(26ページ参照)

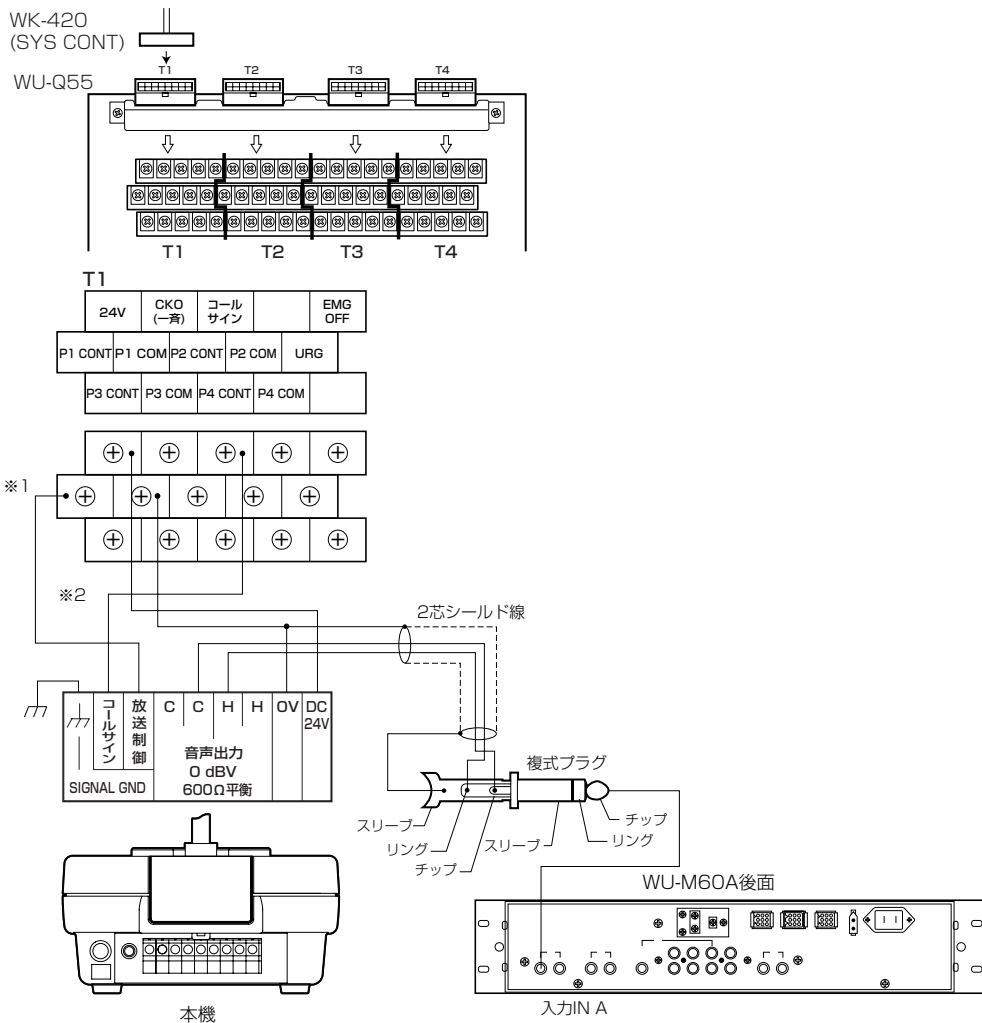
コールサインの音量調整は、コールサインユニット (WU-Z05/Z05A) 内部のコールサイン音量調整ボリューム (VR1) で行います。

(3) 本機から本機内蔵のコールサインとラック形音響装置のコールサインをどちらも鳴らさない場合

本機のコールサイン端子と、端子盤ユニット (WU-Q55) の端子台T1上にあるコールサイン端子は接続しないでください。

本機底面のコールサイン音量調整ボリュームは、最小にします。(26ページ参照)

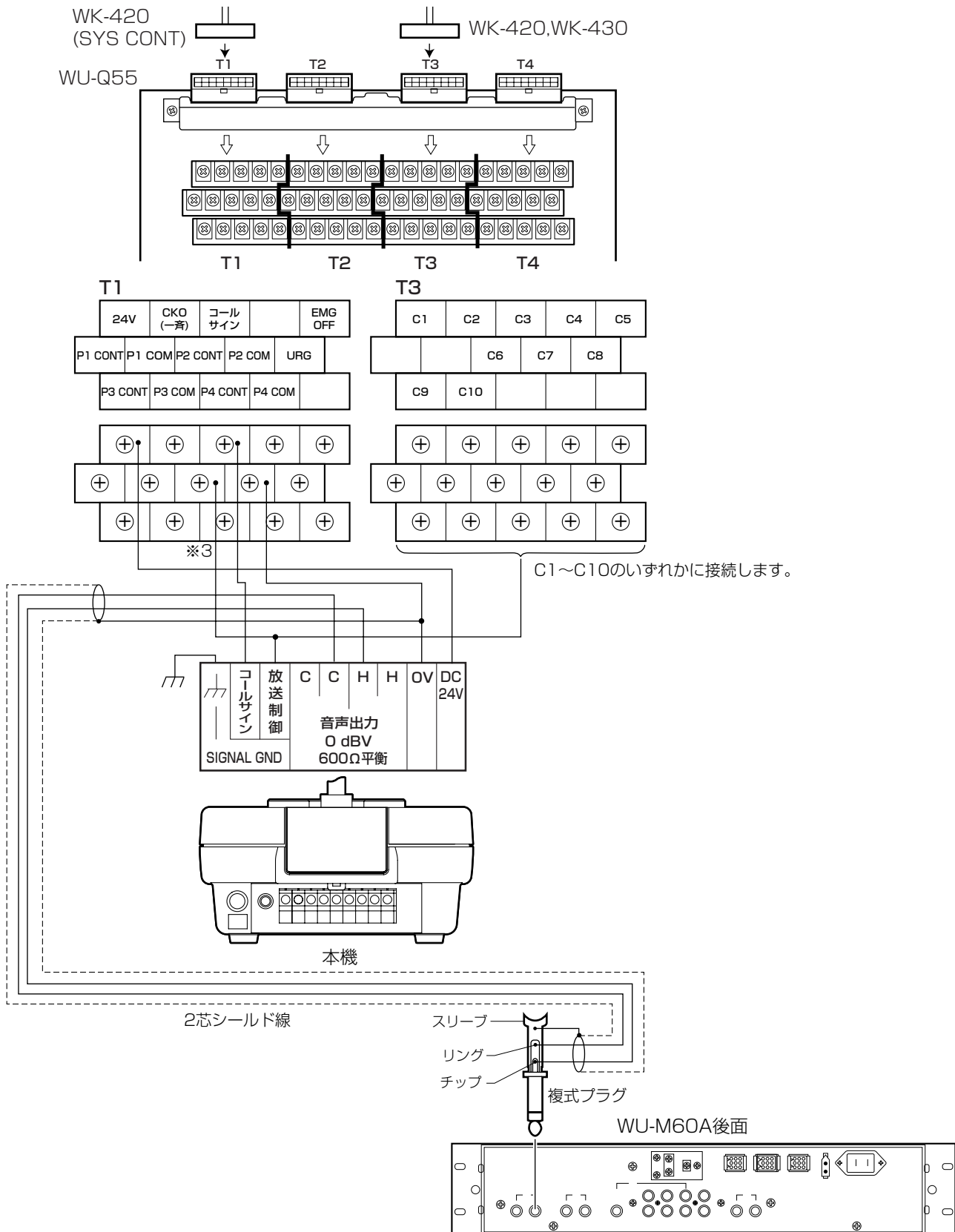
●一斉放送用として使う場合



※1：一斉放送用として使う場合は、放送の優先順位が1位に固定されますので、P1に接続します。

※2：ラック形音響装置のミキサーユニットに組み込まれたコールサインユニットを、本機のコールサインで鳴動させる場合に接続します。この場合、本機のコールサイン音量調整ボリュームは最小に絞り切ってください。

●複数のスピーカー回線をまとめて使う場合

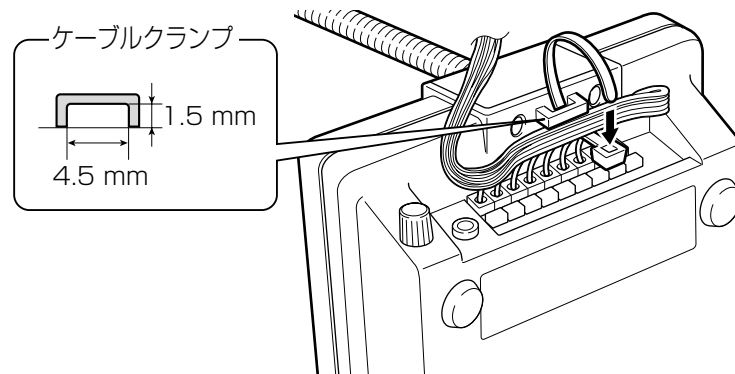


※3：一斉放送以外は、優先順位が2～4位となりますので、P2～P4に接続します。本例では、P2に接続しています。

接続のしかた

■線材の束線のしかた

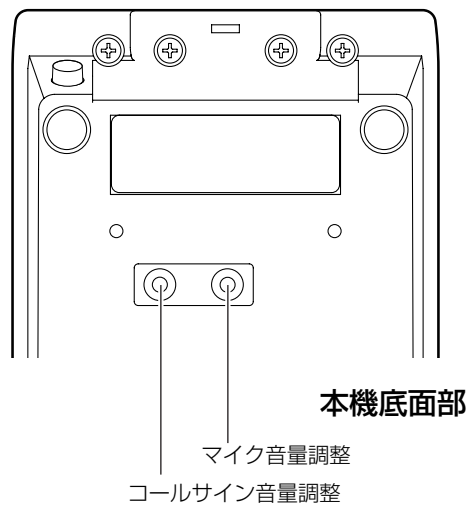
端子台に接続した線材は、一度端子台の右端まで曲げてから中央に折り返して、後面中央のケーブルクランプに付属の束線バンドを通して束線します。



■音量の調整のしかた

本機底面の孔径はφ3 mmです。

調整は、本体底面に付属されている音量調整用小型ドライバーを使用して行ってください。



注意

- 調整時には、過大なトルク（4 N・cm以上）がかからないようご注意ください。

●マイク音量調整

フレキシブルマイクの音量を調整します。矢印方向で音量が増大します。 マイク音量 

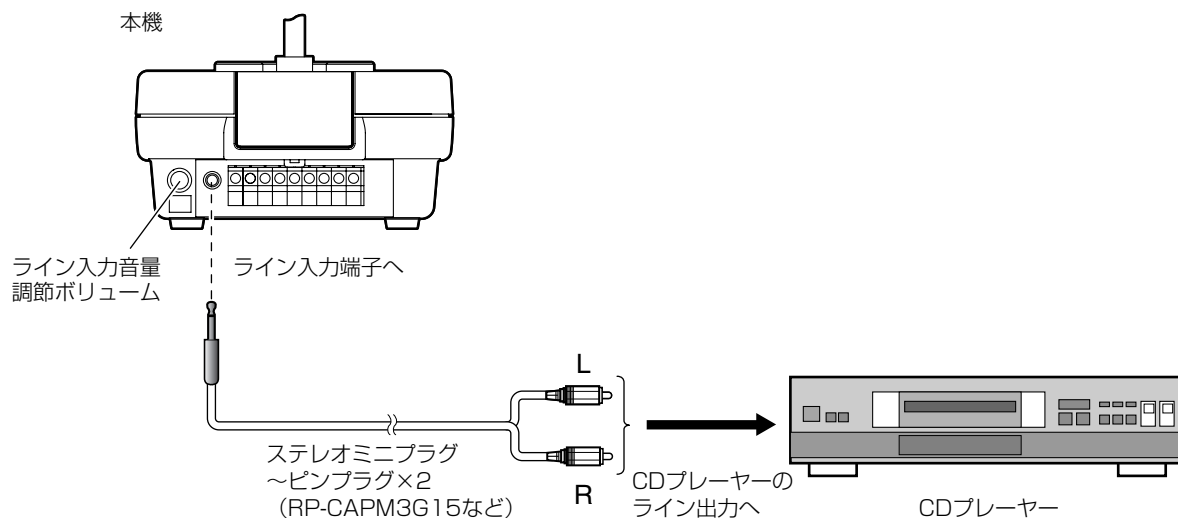
●コールサイン音量調整

コールサインの音量を調整します。矢印方向で音量が増大します。 コールサイン音量 

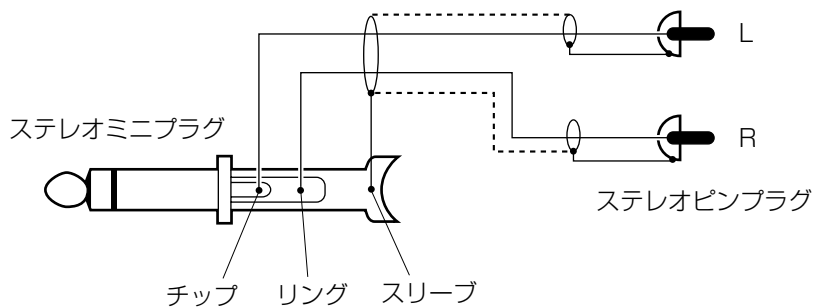
■ライン入力端子への接続のしかた

本機のライン入力端子は、ステレオミニジャックです。

市販のステレオCDプレーヤーとは、下記のように接続します。音量はライン入力音量調節ボリュームで調整します。



ステレオミニプラグとステレオピンプラグの配線は下記の通りです。



故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
放送ができない	<ul style="list-style-type: none">● 通電表示灯が点灯していますか？ → 消灯している場合、本機に電源が供給されていません。 マイクボタンまたはラインボタンを押してください。 それでも消灯している場合は、主装置側の電源を「入」にしてください。	6
	<ul style="list-style-type: none">● 放送中表示灯が点灯していますか？ → 消灯している場合、マイクボタンまたはラインボタンを押してください。	6
	<ul style="list-style-type: none">● 主装置側で、本機より優先順位が上位の機器から放送されていませんか？ → 優先順位が上位の機器の放送が終了してから、放送してください。	主装置側の取扱説明書

仕様

●基本仕様

電源	DC24 V 45 mA以下 (即結端子台)
使用温度範囲	0 °C~+45 °C
寸法	幅107 mm 高さ55 mm 奥行き 155 mm (突起部およびフレキシブルマイクは除く)
質量	約400 g
仕上げ	上ケース：OAアイボリー色 (マンセル5.5Y7.5/0.3近似色) 下ケース：グレー色 (マンセルN5.5近似色)

●音声入出力

周波数特性	ライン 50 Hz~15 000 Hz-3 dBV±2 dBV
ひずみ率	1 %以下 (1 000 Hzにて)
マイク入力	単一指向性ECM内蔵フレキシブルマイク 長さ350 mm 入力感度 -49 dBV (出荷時 -44 dBV) S/N比 50 dB以上
ライン入力	φ3.5 mmステレオミニジャック 入力感度 -12 dBV (出荷時 -2 dBV) 入力インピーダンス 10 kΩ S/N比 70 dB以上
音声出力	即結端子台 H、C 平衡 出力レベル：0 dBV 適合負荷インピーダンス 600 Ω
コールサイン	下り2音

●制御出力

放送制御	1回路 即結端子台 制御容量最大 DC 30 V、DC 160 mA
コールサイン制御	1回路 即結端子台 制御容量最大 DC 30 V、DC 80 mA

●その他

操作ボタン	マイク、ライン、コールサイン
表示灯	通電、放送中

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このリモコンマイクの補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

28ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。

下記修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。


ご連絡いただきたい内容

製品名	リモコンマイク
品番	WR-201
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは https://biz.panasonic.com/jp-ja/support_cs-contact

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品番	WR-201
	販売店名	電話（	）	—		

パナソニック コネクト株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号

3TR004323GBA
ASe0406-6042